

(お知らせ)

**新潟県中越沖地震の発生を踏まえた福島第一原子力発電所および
福島第二原子力発電所における地質・地盤調査の実施について**

平成 19 年 11 月 5 日
東京電力株式会社
福島第一原子力発電所
福島第二原子力発電所

当社は、平成 19 年 7 月 16 日の新潟県中越沖地震の発生を踏まえ、福島第一原子力発電所および福島第二原子力発電所において、これまでの地質調査をさらに補完し知見を拡充するため、発電所周辺の陸域および海域における地質調査を実施することといたしました。発電所の周辺陸域では地下探査、周辺海域では海上音波探査、敷地内ではボーリング調査等を実施することといたします。
([平成 19 年 8 月 17 日お知らせ済み](#))

このたび、福島第一原子力発電所および福島第二原子力発電所の敷地内におけるボーリング調査等の計画がまとまり、本日より準備作業を開始することといたしましたので、お知らせいたします。

本調査では、発電所敷地内の地盤の性質を調べ、耐震安全性の評価に反映することを目的として、ボーリング調査および地下水位観測、地盤物性試験を実施いたします。

また、周辺陸域の一部の調査もあわせて実施いたします。

発電所の周辺陸域での地下探査、周辺海域での海上音波探査等についても、今後、調査計画をとりまとめ、準備が整い次第、調査を開始いたします。
以 上

(別紙)

- 新潟県中越沖地震の発生を踏まえた福島第一、第二原子力発電所における地質・地盤調査の実施について

新潟県中越沖地震の発生を踏まえた福島第一、第二原子力発電所における地質・地盤調査の実施について

平成 19 年 7 月 16 日の新潟県中越沖地震の発生を踏まえ、これまでの地質調査をさらに補完し知見を拡充するため、福島第一、第二原子力発電所において地質調査を実施することとしており、発電所敷地内および周辺陸域の一部の調査を以下のとおり実施します。なお、周辺陸域の地下探査、周辺海域の海上音波探査等についても、今後、調査計画をとりまとめ、準備が整い次第、調査を開始いたします。

1. 調査内容

(1) 発電所敷地内における地質・地盤調査

- 埋め戻し土などの浅い地盤の地震時安定性（沈下や液状化など）評価に反映するため、ボーリング調査、地下水位観測、地盤物性試験を実施し、地盤の性質を調査する。
- 今後実施予定の地下探査、海上音波探査結果と対比を行うため、敷地内で深い位置までボーリング調査を実施し、地質の分布を調査する。

(2) 周辺陸域における地質調査

- 双葉断層を含む陸域の地下探査のための現地調査を実施する。
- 双葉断層の南側におけるボーリング調査のための現地調査を実施する。
- 双葉断層の相馬市より北側延長部に関する既往の地質調査をさらに充実させ、耐震安全性評価の基礎資料を得るため、本年 6 月から実施している地表地質調査を継続して実施する。

2. 調査方法

(1) ボーリング調査

地盤を構成する土や岩石などを棒状のコアとして連続的に採取し、これを観察して地質の状況を調査する。

(2) 地下水位観測

観測井を設置して、地下水位分布を調査する。

(3) 地盤物性試験

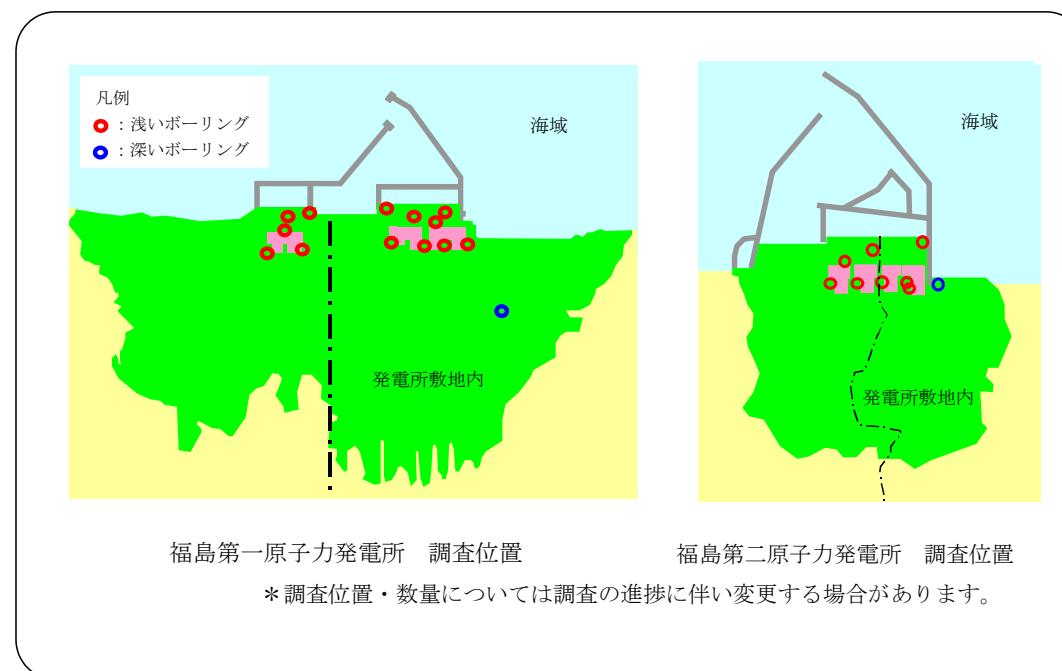
採取した試料などを実験室内で力を加えたり、変形させるなどの方法により、地盤の強さや硬さを評価する。

(4) 地表地質調査

地上で地層が見られる場所（露頭）などを観察し、地質を調査する。

3. 調査箇所

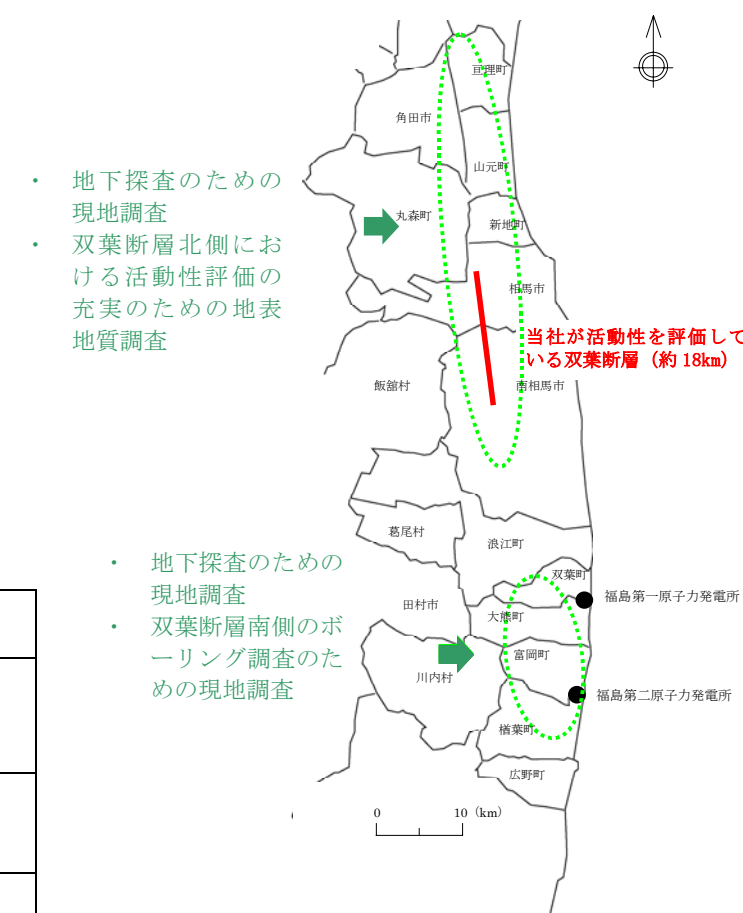
(1) 発電所敷地内における地質・地盤調査



		福島第一原子力発電所	福島第二原子力発電所
ボーリング調査	浅いボーリング	13ヶ所程度, 1ヶ所当たり1~2孔, 深さ約10~20m	8ヶ所程度, 1ヶ所当たり1~2孔, 深さ約10~20m
	深いボーリング	1孔, 深さ約1,000m	1孔, 深さ約1,000m
地下水位観測		浅いボーリング孔で実施 13ヶ所程度	浅いボーリング孔で実施 8ヶ所程度

(2) 周辺陸域における地質調査

下図に示す位置で現地調査および地表地質調査を実施する。



4. 調査期間（予定）

実施項目	H19年		H20年				
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
(1) 敷地内の地質・地盤調査							
ボーリング調査	浅いボーリング	■					
	深いボーリング		■	■	■	■	■
地下水位観測	■	■					
(2) 周辺陸域における地質調査							
	■	■	■	■	■		